

# IBM XCITE SPRING 2015

## A New Way - その先へ

# IBM XCITE SPRING 2015: A New Way — その先へ

## 新しいテクノロジーが創る、新しいビジネス

### はじめに

IBMが主催する「IBM XCITE SPRING 2015」が、2015年5月19日から20日まで東京・品川のグランドプリンスホテル新高輪にて開催されました。このイベントは今年で3回目となります。ソフトウェアに加えてハードウェア、サービスまで、IBMの総力を結集して行われたこのイベントには、過去最高の5000名を超える方が参加されました。

今回のXCITEイベントのテーマは「A New Way～新しいテクノロジーが創る新しいビジネス～」。基調講演では3つの視点「新しい発想」「新しい働き方」「新しい未来」が、セッションでは「アナリティクス」「クラウド」「コマース/ソーシャル/モバイル」「セキュリティー」「インフラストラクチャー」「ワトソン」といったテクノロジーをテーマに、ビジネスのデジタル化アプローチについての豊富な事例やデモが紹介されました。また展示会場では、IBMやビジネスパートナーによる先進ソリューションのデモや展示が80以上も紹介されました。「これからの時代を生きるエンジニアが身につけるべき新しい開発アプローチを共有」するための開発者向けイベント“dev@XCITE”も同時開催され、こちらも大変な盛況でした。

これまでの産業のあり方が大きく変わろうとしている今、最先端のテクノロジーがどのようにビジネスを変革しつつあるのか、その最新情報が紹介されました。

### A New Way

初日の基調講演では日本アイ・ビー・エム株式会社社長のポール与那嶺が登壇し、IBMが進めている過去103年を振り返っても前例のない改革について述べました。IBMがCAMSS(クラウド、アナリティクス、モバイル、ソーシャル、セキュリティー)と呼ぶ、いわゆる第三世代プラットフォームが大きな市場を生み出していること、この分野で積極的な投資や業務提携を進めていることを説明しました。またIoT(モノのインターネット)事業に注力しメインフレームとクラウド技術でこの分野を支えていく、と述べました。例としてメインフレームを使って金融リスクを瞬時に分析するなど、ハイ・パフォーマンスな業務が実現できることを訴えました。B2Bの分野においてもITの使いやすさが重要であることを説明し、IBMがAppleと業務提携を発表したことや日本郵政グループと高齢者向けUIテクノロジーの開発に取り組むことを紹介しました。



新しいIBMの取り組みについて説明する社長 ポール・マリッツ

われわれがCAMSSと呼ぶ第三世代プラットフォームが新たな市場を生み出している。IBMは大規模な投資とさまざまな企業との業務提携を行い、ハイブリッド・クラウドやアナリティクスなどのテクノロジーを活用した、各インダストリーに最適なソリューションを提供していく。(ポール・マリッツ)

クラウド分野では、昨年12月にSoftLayerのデータセンターを東京に立ち上げたことや、SAP社がIBMクラウドの採用を発表したことを紹介。アナリティクス分野では、Twitter社やFacebook社と業務提携をし、IBMの分析テクノロジーと組み合わせ、ソーシャルデータによる評判分析や最適な意思決定を支援するサービスなどの提供を検討していることに言及しました。Watsonについては日本語化対応を年内に行い、今後教育・ヘルスケア・コールセンター最適化などの分野で活用したい、と述べました。IBMはこれらのテクノロジーを経営者にとって投資効果がわかりやすいインダストリー・ソリューションとして提供していくとして最初の講演を締めくくりました。

### ■ビッグデータ、アナリティクスがもたらす

#### 「新しい発想～A New Way to Think」が、革新的なビジネスを創る

ソフトウェア事業本部長のヴィヴェック・マハジャンは、「A New Way to Think」について説明しました。90億個ものデバイスがインターネットにつながり膨大な大量データを生み出している今、これをいかに分析してビジネス活動につなげていくかが非常に重要になってくると指摘したのち、IBMの次世代クラウド・プラットフォームである「IBM Bluemix」を以下のようなデモで紹介しました。来



新しい発想について説明するソフトウェア事業本部長 ヴィヴェック・マハジャン

店されたお客様に手渡した小さなビーコンによって、店内でのお客様の動線が分かるようになり、お客様がいる店内のその場所、そのタイミングでお客様に合わせたオススメが瞬時に通知されるというものです。こうしたテクノロジーはすぐにクラウド上で開発でき活用できると説明しました。

IoTデータがアナリティクスにより洞察に変わる。プランナーと現場をより親密につなぎ、新しいサービス向上・新しい顧客体験を実現する。IBMは「IoT×アナリティクス技術」でお客様とともに新しい価値を創造していく。(ヴィヴェック・マハジャン)

2日目の基調講演にはIBMシステムズ・ハードウェア事業本部長の武藤和博が登場。ソーシャル・テクノロジーによる新たな働き方や、クラウドとセキュリティによる新たな基盤が描く新しい未来について紹介しました。

### ■モバイルとソーシャル・コラボレーションが組織のあり方を変革し

#### 「新しい働き方～A New Way to Work」を実現する

さまざまな調査データから、モバイルとソーシャルが企業における仕事の進め方に大きな影響を与えていることが明らかになっています。企業がモバイルを業務利用するためには、ユーザー・インターフェース、セキュリティ、基幹システム統合が課題となります。

IBMとAppleとの業務提携により、シンプルでパワフルなモバイル・アプリ開発に取り組んでいること、企業におけるモバイル活用やソーシャル・コラボレーションには東京基礎研究所が長年開発してきたアクセシビリティ技術、自然言語解析なども提案に盛り込まれることが紹介されました。さらにアナリティクス機能を備え



企業には多様なクラウドの組み合わせが必要と説明するクラウド事業統括担当 小池裕幸

た新しい業務支援のSaaSである「IBM Verse」によって、大量のメールや作業項目を整理して、利用者が本来の業務に集中できる新しいワークスタイルが実現することが説明されました。ここでお客様が登壇され、IBM Verseを使うと時間が有効に使えて心にも余裕ができるようになるとの体験をお話いただきました。

ソーシャルとモバイルの普及は、企業と顧客とのつながりにも大きく変化を及ぼしており、店頭・Web・コールセンターなどお客様視点での体験をお届けすることが重要であると説明し、IBMのキャンペーン管理システムによる取り組み事例が紹介されました。

### ■クラウドによる新たな基盤が

#### 「新しい未来～A New Way Forward」を描く

消費者へのパワーシフトが加速している現在、顧客体験が成功の新たな指標の基になっており、マスから個への対応が求められています。企業内の重要なデータ資産を分析活用し、いかに早く対応できるかが成功の鍵となります。ここで「Mobile Challenge」というCiti社の取り組み事例

などが取り上げられ、こうしたアプリケーションは検索・地図情報・外部サービスとの組み合わせで改良されていくものであり、堅牢なセキュリティー対策が講じられたハイブリッド・クラウドでなければ実現できません。IBMはこれに対応したソリューションとしてIBM Bluemixを提供していると紹介しました。

### セッション

ここからは、数あるセッションのなかからCAMSSのテクノロジー・テーマごとに選んで概要をレポートします。

#### ■「企業向け」を追求するIBMクラウド

##### ービジネス・ニーズの変化に応えるクラウドの変化とは

クラウド事業統括担当の小池裕幸による講演です。オンプレミス・オフプレミスという軸だけではなく、非連続の変化が起きているSoE(Systems of Engagement: お客様との絆を強めるシステム)への対応が大事であると小池は指摘し、IBMのPaaSであるIBM BluemixによるAPIを活用した、迅速な開発実行環境の紹介をしました。またIBMのクラウドは、IaaS/PaaS/SaaS/BPaaSをカバーしており、リソースの共有/占有が選べることから、企業にとって状況や必要に応じた最適な選択ができる真の企業向けクラウドであることを説明しました。

#### ■2015国境なきサイバー・セキュリティー最前線

##### ー企業経営の立場から

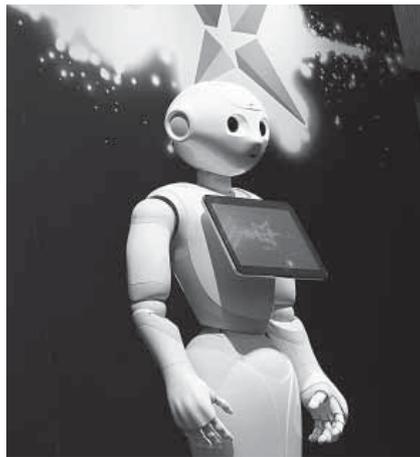
セキュリティー事業部長の佐内桐梧、セキュリティー・サービス事業部長の本間将一、ハイエンドシステム事業部長の朝海孝によるパネルディスカッション形式の講演です。佐内は、いまやセキュリティー

IBMの最先端セキュリティー・ソリューションを説明する佐内、本間、朝海





展示会場では80以上ものデモや展示が紹介された



Watsonテクノロジーとの組み合わせで、パーソナル・ブレイン・アシスタントとしての役割が期待されているPepper



犯罪は国境を越えて組織化されサービス・ビジネス化していると指摘。こうした犯罪に対応するには高度なインテリジェンスを持ったセキュリティー対策が必要で、「IBM QRadar Security Intelligence Platform」が全世界4200社のお客様で活用されていることを紹介しました。朝海は、不慮の事件・事故が起きてしまったときの事後対策を経営課題として捉える必要があると指摘。金融業のお客様事例を紹介し、最も安全な「IBM z Systems」にデータを集約することで情報漏えいリスクが極小化できることを説明しました。本間は、常に新たな脅威に対して慢性的な人材不足を指摘し、外部のセキュリティー・サービスを活用することも検討すべきと説明しました。

### ■企業経営の武器はこうつくる！

**進化する基幹データ分析と情報基盤の構築のポイント**  
テクノロジー・エバンジェリスト石井旬による講演です。これまでは目的に合わせてデータがコピー・分析されてきましたが、データを1カ所に論理的に集めそこにアプリケーションを追加していく手法へ、つまりビッグデータ時代のパラダイムシフトが起きると主張しました。鮮度の高いデータを即座に活用できる基盤としてIBM z Systemsを紹介。またクラウド・サービスとして「IBM dashDB」「IBM Cloudant」「IBM Watson Analytics」が紹介されました。IBM Watson Analyticsは、クラウド・サービスでありながら基幹データをセキュアにアップロードして、自然言語で質問すると予測・洞察の結果を答えてくれるものです。業務部門がこのサービスを使うと、IT部門の力を借りずに自ら分析業務を行えるのが特徴です。石井は、新たな情報基盤のあり方を設計することこそが競争力ある企業運営を可能にすると説明しました。

### ■ビジネスの成功を目指す企業がクラウド/モバイル活用で直面する5つのインフラ課題と対策

システムズ・ソフトウェア事業部営業統括部長の林健一郎による講演です。タイトルにある5つのインフラ課題とは、①開発期間を短縮するためのクラウド活用、②クラウドとモバイルをつなぐ連携基盤、③開発工程の見直しによるDevOpsの採用、④ビジネスへの影響が可視化できるサービス管理、⑤セキュリティーの高度化であり、それぞれについてIBMのソリューションと多くのお客様事例を紹介しました。

### ■おわりに

あらゆるものがデータとして捉えられるようになり、情報活用の可能性は無限に広がっています。このXCITEイベントでは、IBMの最先端テクノロジーや事例紹介を通じて、ビジネスのデジタル化により新たなビジネスが創造されつつあることが確認されました。新しいCAMSSテクノロジーをビジネスに活用する準備は整いました。これからは新しい発想で、新しい働き方による新しい未来を切り開く、新しいビジネスが創造されることでしょう。次回のXCITEイベントではどんな新たな事例が紹介されるのか、今から期待されます。

撮影協力：  
テクニカル・リーダーシップ、クライアントIT推進 アーキテクト 田原 和彦



日本アイ・ビー・エム株式会社  
ソフトウェア事業本部  
テクニカルセールス&ソリューションズ  
アーキテクト

**今村 健司**  
Kenji Imamura

IBM入社後、流通業のお客様プロジェクトにてシステム開発・設計に従事、SOA・BPMのテクニカル・セールスを経て、2009年よりアーキテクトとして各業界のビジネス変革を支援する提案活動中。